

ご自由にお持ち帰りください



公益財団法人 宮城厚生協会

坂総合病院

NEWSaka

2016.10
No.12

発行責任者：坂総合病院院長 内藤 孝



多賀城碑



多賀城跡外郭南門付近

- 1 多賀城跡付近
- 2 市民公開講座 (9/10)
- 3 医師紹介 伊在井淳子医師 (外科科長)
- 4 職場紹介 (検体検査室)、食養室管理栄養士から (5回目)
- 5 認定看護師紹介その3 (菊地美希子緩和ケア看護認定看護師)、リハビリ室のお仕事紹介4回目
- 6 高校生看護師体験、医療機関訪問報告
- 7 外来診療案内
- 8 インフォメーションほか

病院理念

わたしたちは、患者さまの権利を尊重し、
共感・協同・平等・安全の
医療をめざします。



◇テーマ：「動脈硬化と足のいたみのはなし」

～糖尿病、高血圧症、高脂血症、喫煙の危険因子はありませんか？～

9月10日(土)の午前、利府町コミュニティセンターにおいて、地域の方々50名以上が参加し会場が満員状態で市民公開講座が開催されました。



はじめに、病院を代表して小幡篤副院長があいさつしました。きびしい医療情勢も含め、坂病院の現状紹介、とりわけ「地域医療支援病院」としての役割などの説明をし、『これからも最後の砦としてがんばっていく所存です。』と病院の決意を述べました。

■演題①：『動脈硬化症の話～足の痛み、壊疽(えそ)を予防するための方法～』



佐々木伸也医師(循環器科医長)が表記演題で報告しました。最初に、参加者のみなさんに「こんな症状はありませんか?」

とさまざまな質問を投げかけ本題に入りました。

動脈硬化は全身疾患であると述べ、特に下肢閉塞性動脈硬化症(以下PAD)の特徴を分かりやすく説明しました。

重症下肢虚血になると壊疽状態になり下肢切断などもありうるので要注意とか、似た病気のこと、どんな検査をするのか、おかしいと思ったら自分で判断せず、まずは近くの医療機関を受診しPADが疑われたら専門病院でABI検査(足と腕の血圧

同時測定)、場合によってはCT、MRIなどを行なうことなど述べました。

また、治療方法(薬物療法、運動療法、血管内治療など)について説明し、具体的に当院の新心臓カテーテル装置導入の状況や「フットケアチーム」の活動が紹介され、高気圧酸素療法、フットウエア、外来運動療法など、チームで日々患者様の役に立てるよう、いろいろ取り組み努力している状況が報告されました。

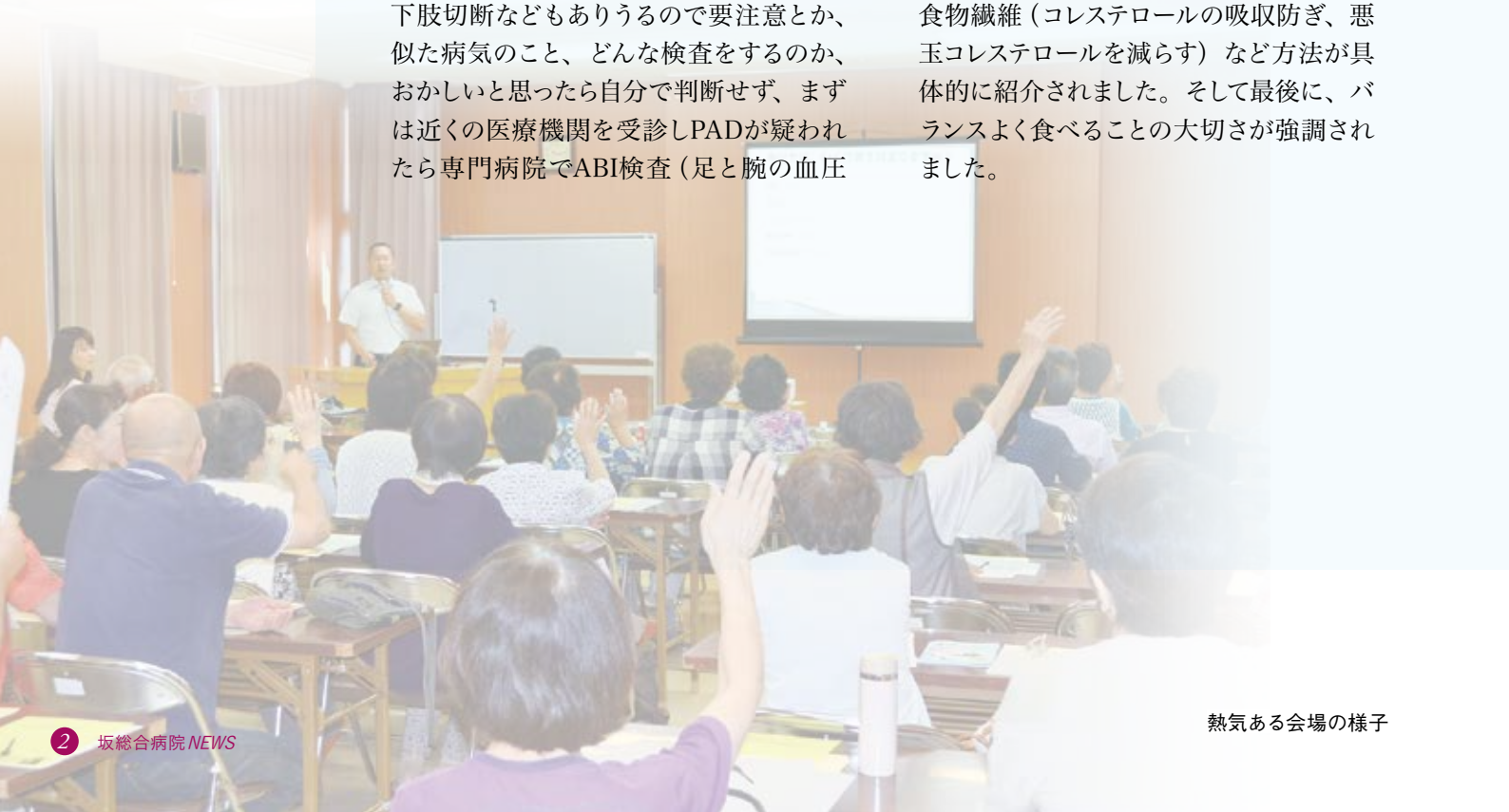
終了後、参加者からたくさんの質問があり一つ一つ丁寧に答えました。

■演題②『動脈硬化を予防する食事の工夫』



遠藤あずさ管理栄養士が報告しました。血管力を食事でアップさせるとして、1.傷み対策(高血圧)⇒塩分を控える。2.詰まり対策(脂質異常症)⇒コレステロールを控える。3.サビ対策(糖尿病)⇒炭水化物、甘いものを控える、三食規則正しく食べる。という項目に沿って説明されました。

また、積極的に摂りたいものとして、①EPA・DHAなど(血液サラサラ、血栓予防効果)、②抗酸化ビタミン、抗酸化成分(LDL-コレステロールの酸化を防ぐ)、③食物繊維(コレステロールの吸収防ぎ、悪玉コレステロールを減らす)など方法が具体的に紹介されました。そして最後に、バランスよく食べることの大切さが強調されました。



医師紹介 (上)



外科病棟スタッフ。前列中央が伊在井医師

坂総合病院外科科長

伊在井淳子 医師

いざい じゅんこ

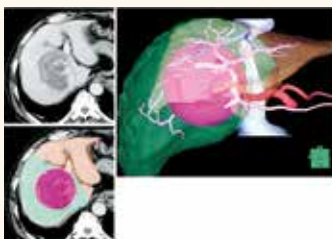
●自己紹介

2016年4月より坂総合病院外科科長を務めております伊在井淳子と申します。

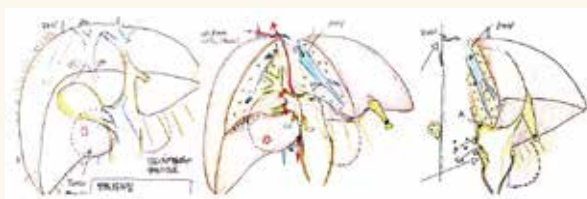
1996年に弘前大学医学部を卒業し、初期研修医として当院で研修を始めて以来、地域の患者様やご家族、先生がたから多くを教わり、ここまで育てていただきました。専門領域は肝胆膵外科です。専門研修では、名古屋大学腫瘍外科、静岡がんセンターにお世話になり、困難でも「簡単にはあきらめない心」を教わりました。高度進行癌や、高齢のかた、様々な内蔵のご病気をお持ちのかたで手術が容易ではなさそうでも、手術が唯一の根本治療である場合は可能性をあきらめずに検討いたします。ほかに、腹部救急疾患、外科感染症、臨床栄養も得意分野です。

●肝胆膵外科とは

肝臓、胆道(胆管、胆嚢、乳頭部)、膵臓のがんの手術が主な役割です。この領域の血管解剖は特に複雑で個人差もあり、手術前の解剖の熟知が重要です。当院では、2014年から3次元画像解析システムボリュームアナライザーのSYNAPSE VINCENT(富士フィルム)を導入し、肝臓や血管を0.6mm間隔で撮影した画像を3次元構築して丹念に術前



3次元画像解析を用いた肝右葉切除の術前シミュレーション



同症例スケッチ

シミュレーションを行うことにより、手術の正確さを高めています。

私のヒミツ：主要な肝胆膵外科手術は一般的に短時間では済みません。長丁場でも気合を維持するための私なりのルーチンは、朝カレーです。そのような手術を私は俗に「カレー適応」と呼び、いつなんどきでも対応できるよう常備しています。にしきや食品(本社：岩沼市)のココナッツチキンカレー(辛口度4)とマトンパンジャビー(辛口度5)の組み合わせがお勧めですよ。



気合を維持するための朝カレー

●専門資格など

外科専門医・指導医、消化器外科専門医・指導医、消化器病専門医・指導医、救急科専門医、外科感染症学会感染管理教育医・認定医、日本静脈経腸栄養学会認定医、消化器がん治療認定医、日本肝胆膵外科学会評議員、日本腹部救急医学会評議員、インфекションコントロールドクター





検体検査室スタッフのみなさん

患者さんから採取された「検体」を検査する職場

病院に行くと、採血をされたりコップに尿をとったりする機会があるかと思います。腹痛の時には便を、咳がひどい時には痰を採ることもあります。こうして患者さんから採取された「検体」を検査しているのが「検体検査室」です。

皆さんが職場や学校の健康診断で調べる肝機能・脂質・血糖・貧血検査といった一般的な項目に加え、腫瘍マーカー・甲状腺ホルモン・ピロリ菌の検査も院内で実施しています。

いろいろな分析をして、体にどういう異常があるかを探り、医師の診断や治療の手助けをしています。当院では現在13名の臨床検査技師と2名の事務で業務

にあたっています。

検査室では、大量の検体を大小様々な分析装置を用いて検査します。緊急度の高い検査は、24時間迅速な分析を行なうことで診察前に結果を報告します。正確な分析をするためには、日々の装置メンテナンスも欠かせません。検査項目や病態によっては装置での分析が出来ない検体もあるので、顕微鏡で観察し細胞分類なども検査技師の重要な仕事です。

腹痛で採取された便、咳症状で採取された痰などは主に細菌検査が行なわれます。検体に含まれる細菌を培地に発育させ、その中から体に悪さをしている菌を見つけ出し、どんな薬が効くのか調べます。

安全かつスムーズな診療を受けられるよう

また、高度貧血や大量出血の患者さんでは輸血が必要になる場合がありますが、輸血用血液製剤の管理も検査室が担います。患者さんの体と製剤とのあいだに拒否反応が起こらないかどうか事前検査で確かめ、安全な輸血に努めています。

裏方の仕事が多い職場ですが、外来の採血室では看護師と一緒に採血もしています。

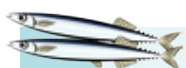
検体検査室一同、患者さんが安全かつスムーズな診療を受けられるよう、日々業務の見直しを図りながら今後もより良い医療を目指していきます。

坂総合病院食養室 管理栄養士から

管理栄養士 鈴木 亜紀

第五回

食欲の秋ですね!! 今回は誰もが知る秋の食材4つを紹介します。



秋刀魚 (サンマ)

サンマには、血液をサラサラにしてくれるEPA (エイコサペンタエン酸) や、脳に良いと言われているDHA (ドコサヘキサエン酸) など良質の栄養素が豊富に含まれています。*サンマは魚の中でもカロリーが高めです。一度に食べる量は1尾を超えないように注意しましょう。



さつまいも

さつまいもは、りんごの10倍以上ものビタミンCが含まれていると言われています。ビタミンCには風邪の予防や疲労回復、肌荒れなどに効果があります。さらに、さつまいもを切ると出てくる白い乳液のようなものは「ヤラピン」という便秘予防効果のある成分が含まれています。



かぼちゃ

かぼちゃは、ビタミンA (β-カロチン) が豊富な栄養面で優れた代表的な緑黄色野菜です。免疫力を高める働きや体を酸化から守る抗酸化作用などもあります。



栗 (くり)

栗は、ビタミンB群が豊富に含まれているため疲労回復や体の成長を促進してくれます。今の時期は、栗ごはん、焼き栗、スイーツなど様々な料理に活用できます。

* さつまいも・かぼちゃ・栗ごはんは同じ仲間分類されます。これらを食べる時はごはんを控えめにしましょう。



どこにいても緩和ケアを受けられる環境めざす

緩和ケア看護認定看護師
菊地美希子

緩和ケアとは

緩和ケアとは、生命を脅かすような病気による問題に直面している方とご家族が抱える苦しみを、身体的、精神的、社会的、スピリチュアルと4つの側面から捉え、それらの苦しみを緩和することでQOL（生活の質、生命の質）をより豊かにすることを目指した医療です。

本来緩和ケアは、診断された時から始まり、また、がんに限らず非がんの方にも提供される医療です。しかし現状では、「緩和ケア＝がんの終末期に対する医療」という考えが定着しており、早期から必要な方に緩和ケアが提供できていません。病气と診断されると、患者様やご家族は様々な苦渋の決断を余儀なくされます。また闘病の過程では、体の不自由さ、自己選択の制限、社会からの孤立感などを感じます。そのような苦しみを患者様やご家族だけに負わせる

のではなく、医療者も共に考え、寄り添い、前に進んでいく過程を支援していく必要があります。そして最期までその方の価値観や自己決定が尊重され、尊厳ある生を支えたいと考えています。

緩和ケアへの知識深められるよう

昨今、医療の高度化や多様化により病院業務は更に忙しくなり、在院期間の短縮も相俟って、患者様やご家族の人生に触れる機会がますます困難な状況になりました。また、地域包括ケアシステムの推進により、在宅療養される方が増えてきています。

そのため私は、認定看護師の役割である「実践」「指導」「相談」を通して、院内外の医療者や地域住民が、緩和ケアへの知識を深められるよう活動したいと思えます。そして病院、地域どこにいても緩和ケアが受けられ、安心して生活できる環境をめざします。



NSTラウンド回診中

当院の「リハビリテーション栄養チーム」は、入院患者さんの栄養状態を含めた身体機能の評価を行なった上で、適切な予後予測のもとで、リハビリテーション栄養計画の立案・実施を目標に創設されたチームです。

メンバーはリハビリテーションスタッフ中心で、リハビリテーションと栄養管理の観点から多様な病態に応じて、適切な栄養管理とリハビリテーションを行ない、入院患者さんの低栄養状態を未然に防ぐことや、侵襲の軽減や廃用症候群の予防、臥床状態

の軽減、早期自立へのサポートとして活動しています。

活動の1つに院内の栄養管理の回診に週1回参加し、多くの職種と連携を図っております。また現在、当院で提供する栄養補助食品の選定を行っております。その他の活動については次号で紹介いたします。



さまざまな栄養補助食品

シリーズ
さまざまなリハビリテーション
第4回 リハビリテーション
栄養チームについて
言語聴覚士
NST 専門療法士(日本静脈経腸栄養学会)
大川 悠

高校生の看護師体験

素敵な看護師さんになりたい

看護学生室 村上 京子

7月末と8月初めに夏の高校生の看護師体験が行われ、49名が参加しました。

年々多くなる体験申込み

高校生の看護師体験は県内の高校1年生から3年生までを対象としており、「看護師になりたい」と決意している生徒や「まだ進路は決まっていないが医療系も視野に入っている」等、就職難で資格系の学科が受験生の人気を集め看護学校への進学希望者が多く体験申込みも年々多くなっています。

受け入れ病棟スタッフの皆さんの協力もあり、患者さんの手浴、足浴などの清潔ケア、車椅子体験、ストレッチャー体験、食事介助の見学など毎回たくさんのご経験をさせていただいています。

◇参加高校生の感想

参加した高校生からは「看護師の仕事は想像以上にハードでしたが、体験を通してますます看護師になりたいです。」「患者さんの質問に丁寧に答えているのが印象的でした。」「コミュニケーションがとても大事



緊張したストレッチャー体験

だと思いました。」「担当してくれた素敵な看護師さんのようになりたいです。」などたくさんのご感想がありました。

看護師の姿見てたくさんのご学ぶ

実際に看護師の働いている姿を見て患者さんとの関わりの中からもたくさんのごことを学んでいます。そして、担当してくれたスタッフからは毎回高校生への励ましのメッセージをいただいている事も体験学生には大きな励みになっています。

また、高校生の看護師体験から看護学校へ進学し宮城民医連の奨学生となる学生が年々多くなっておりま



看護師さんになりたいです

医療機関訪問報告

地域の医療機関と連携強めがんばらなければ

地域医療連携室看護師長 佐藤 良子

猛暑の夏に、佐々木隆徳救急科科長・金山直大連携室課長と共に何か所か地域の先生方を訪問させていただきました。

赤石病院院長の赤石隆先生からは、脳外科医師1名は高齢で、体制の困難さや療養病床稼働率の月間変動の管理の厳しさなど話されました。佐々木科長からは、赤石病院かかりつけの内科患者様が坂病院に入院した場合の逆紹介の仕方について質問。内科は非常勤医師だが、普通に紹介してもらってよいとの返答がありました。

仙塩総合病院院長の橋口良一先生からは、医師体制上で夜間帯の救急受け入れは難しい。所有している医療機器も限られており、急性期は坂病院で、慢性期など落ち着いた患者様を中心に診ていると話されました。病床稼働率は75%で推移。誤嚥性肺炎、脳出

血などは日中であれば院長が対応するので相談してくださいと、嬉しい返答をいただきました。

訪問で強く感じたことは、地域とのコミュ



赤石病院を訪問

ニケーション。特に、医療機関とのパイプの太さが紹介の鍵を握ると実感しました。断らない坂病院、安心して受診できる坂病院、地域の医療機関と連携を強めながらがんばらなければと思いました。

坂総合病院（本院）

各科外来診療日・時間

科	診療	月	火	水	木	金	土	備考
脳神経外科	午前	○				○		
	午後					○		
神経内科	午後	○						
消化器科	午前	○	○	○	○	○		
リハビリテーション科	午前		○	○	○	○		
	午後	○						
末梢血管外来	午前	○	○					
甲状腺外来	午後		○診療日隔週					

●医師体制の都合により変更する場合があります。ご了承願います。

総合病院 院長 内藤 孝 電話 022-365-5175(代)

坂総合クリニック1号館

各科外来診療日・時間

科	診療	月	火	水	木	金	土	備考
外科	午前	○	○	○	○	○		
腎臓内科	午前			○				
整形外科	午前	○	○	○				
	午後	○		○				
泌尿器科	午前	○	○		○	○		○診療日隔週
形成外科	午前	○		○				○診療日隔週
	午後		○			○		
耳鼻咽喉科	午後	受付13:00～16:00		受付13:00～16:00			受付8:30～11:30	
産婦人科	午前	妊婦健診～11:30迄 ○11:30迄	妊婦健診～11:30迄 ○11:30迄	妊婦健診 ○11:30迄	妊婦健診 ○	妊婦健診～11:30迄 ○	○	
	午後	○ 妊婦健診				妊婦健診		
精神神経科	午前	○	○	○	○	○		○診療日10/15予定
	午後			○		○		
眼科※1	午前	○11時迄	○	○		○		○診療日隔週
	午後		○診療日隔週	○	○			
皮膚科※2	午前		○			○		○診療日隔週
	午後		○14:30～16:00			○14:30～16:00		
血液科	午後		○			○		
禁煙外来	午後			○診療日隔週				

<各科外来受付時間>

●午前
新患8:30～11:30
再来8:30～11:30

●午後
予約制となっています

※1 眼科の診療は医師体制上の都合により、予約以外の診察をお受け出来ない場合があります。ご了承願います。

※2 皮膚科の診療は医師体制上の都合により、予約外の方は緊急性のある方以外はお受けできません。ご了承願います。

坂総合クリニック2号館

※内科一般外来は午前からのみの診療となります（午後は休診となります）。

各科外来診療日・時間

科	診療	月	火	水	木	金	土	備考
内科	午前	○	○	○	○	○	○	
	午後							
糖尿病代謝科	午前	○	○	○	○	○		○診療日隔週
	午後	○	○		夜間外来			
循環器科	午前	○	○	○	○			○月1回
	午後		○		夜間外来(高血圧)	ペースメーカー外来 診療日隔週		
呼吸器科	午前	○		○		○		○月1回
	午後	○	○	○				
緩和ケア科	午前				○			
漢方科	午前	○	△	△		○		○月2回
	午後	○	△	△	△夜間外来	○		
高脂血症外来	午前			○				
心臓血管外科	午後			○		○		
小児科	午前	○	○	○	○	○	○	
	午後	予防接種 受付13:30～14:30		育児検診				

●当院の外来は全面予約制ですので、来院前にお電話下さい。漢方は診療変更が多い日を△にしています。

電話番号：予約コールセンター 022-361-8288

電話予約受付時間：平日8:30（小児科のみ8:00から開始）～16:30、土曜日8:30（小児科のみ8:00から開始）～11:30

●医師体制の都合により変更する場合があります。ご了承願います。

坂総合クリニック 所長 小幡 篤 電話 022-361-7011(代)

看護部長ご挨拶



各分野で質の高い
「看護の提供」に努めて
参ります

坂総合病院看護部長
高橋美智子

ご挨拶が遅れてしまいました。7月から坂総合病院看護部長に就任しました高橋美智子と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

私たち看護師は「一人ひとりが健康を維持でき、地域でその人らしく暮らせるための看護の提供」をビジョンとして掲げています。患者様が入院生活を不安なく過ごせることへの支援と生活支援としての外来看護・在宅看護までを総合的に質の高い看護が提供できることを目指します。地域では、少子・超高齢化の加速の中で、高齢者の一人暮らしや夫婦二人暮らしが増えると予測されています。何らかの疾

患を抱えていながらも、生活を維持できることへの看護支援が求められています。

当院は「地域医療支援病院」として救急・急性期医療を求められていることから「老年看護と救急看護をベースとした、外来～入院～地域（外来）への切れ目のない看護を構築する」ことを目標とし、救急看護チームの育成、老年看護の全看護師対象研修、患者宅訪問などの地域体験研修などを中心とした育成を重視して取り組んでいます。また、法人の中では急性期医療から訪問看護まで事業所がある利点から、各キャリアステージで力が発揮できるよう看護師の育成、キャリア支援にも取り組んでいます。

患者様にとって、入院は人生の大きなイベントです。それを回復・維持するために看護の力は重要です。しかし、患者様の生活の基本は地域にあります。入院・急性期・慢性期・退院・外来の全てに関わる看護師が、患者様の生き生きとした地域での生活に繋がられるよう、地域での生活を意識した各分野での質の高い看護を提供して参りたいと思います。

地域医療連携センターから

○紹介の状況

	紹介数	逆紹介数
2016年5月	552	693
6月	656	806
7月	668	736
8月	745	765

(坂総合病院、クリニックの合計数です)

○ご紹介の際は、地域医療連携センターまでご連絡下さい。
※坂総合病院・坂総合クリニックは予約診療を行なっています。

お気軽に地域医療連携センターまでお問い合わせ下さい。尚、緊急性の高い症状の場合や入院加療も含めての診療ご依頼の場合は、お電話にてその旨をお知らせ下さい。

《開設時間》

●平日 / 8時30分～17時 ●土曜日 / 8時30分～12時30分

TEL 022-361-4700

※時間外休日は、救急処置室に繋がります。

コールセンターから

○診療の予約・変更・お問い合わせは、コールセンターで承ります。

TEL 022-361-8288

平日(月～金) : 8時30分～16時30分

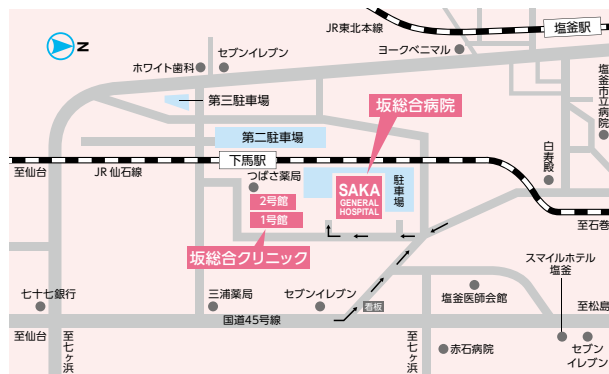
(小児科のみ8時から開始)

土曜日 : 8時30分～11時30分

(小児科のみ8時から開始)

※紹介状をお持ちの方は必ずその旨をお伝え下さい。

※上記時間以外で救急診療のお問い合わせは、病院代表番号にお電話をお願いします。



- 電車をご利用の場合
JR仙石線・下馬駅下車(駅前が病院です。)
- お車をご利用の場合
以前に比べて第一駐車場が狭くなりました。ご不便をお掛けしますが、第三駐車場に駐車し、送迎バスをご利用いただけるようご協力をお願いいたします。

編集後記



朝夕は次第に肌寒く感じる季節となりました。味覚の秋、文化の秋、行楽の秋、様々な秋を感じる今日この頃です。

今月号も市民公開講座の報告をはじめ、坂病院の職場、活動を知っていただく内容を盛り込みました。今後は登録医の紹介ということで地域の先生方への訪問についても掲載させていただく予定です。

より地域連携を強めていきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。(Y)

公益財団法人 宮城厚生協会

坂総合病院

〒985-8506 宮城県塩釜市錦町16-5

電話 022-365-5175 (代表)

FAX 022-365-3620

http://www.m-kousei.com/saka/

